

## 留学報告書

### ～アラスカのイメージが変わる、UAF での生活～

アラスカ大学フェアバンクス校  
外国語学部生（中期）

「アラスカ」と聞いて、みなさんはどのようなことを想像しますか？寒い場所、オーロラが見える場所、そもそも人が住んでいられるのか、など交換留学とはかけ離れたイメージを持っている人が多いかと思います。私も最初はそう思っていました。結論から言えば、アラスカと UAF (University of Alaska Fairbanks) は私にとって、挑戦と感動を与えてくれた場所です。

私は、留学先がアラスカ大学フェアバンクス校に決まった時には、寒くて勉強どころではないだろうと思っていました。しかし、留学が決まってからは、流れるように時間と物事が進んでいき、8月16日に日本を出発し、アラスカ州へ向かいました。この留学が私にとっては人生初海外で、人生初留学です。留学が決まった瞬間は、自分の大学在学中の最も大きな夢が叶って、本当に嬉しいと喜んでいました。しかし、次第に様々な事前プログラムに参加し、準備を進めていく中で、母国語の伝わらない環境に身を置くことへの不安を覚え始めました。自分の思っていることを正確に伝えられない、準備中の書類の内容が全く分からないなど、私の不安は出発日が近づけば近づくほど大きくなっていきました。そんな不安と共に、私の留学生活はスタートしました。

#### 8月：人生初海外で新しいことだらけの生活

今年度、名古屋学院大学からは私を含めて3人がUAFへ留学しました。私たちは到着後翌日から Wilderness welcome camp という野外イベントに参加するため、他の大学よりも早めに現地に行きました。そのイベント序盤で、私は自分の能力の低さに圧倒され、留学生活2日目にして日本へ帰国したくなりました。とにかくキャンパス内が広くて集合時間に遅れそうになる、現地学生用のプログラムであるため留学生への配慮などは特になし、そもそもバックパッキングって何？というように、次から次へと私は何かに追われていました。

4泊5日のデナリ山でのキャンプで、英語を使用してのコミュニケーションもままならず、とにかく前半は苦痛でしかなかったことを覚えています。しかし段々と、現地の学生が話している英語のスピードに慣れていくことができ、皆がよく使っている表現やスラング（ワカモノコトバに近いもの）を認識することができました。そのおかげもあって、後半はそれなりに楽しめ、最終日は「参加できて良かった」と思えました。活動を共にしたグループの仲間とは、学校内ですれ違う時に挨拶をしてくれたり、時間が合えば会話をしたりと、キャンプが終わっても関係が続いたのは嬉しかったです。その中でも一番心の支えになってくれたのは、同じ大学の仲間でした。派遣先が決まってからの付き合いだったので、それほど時間

は経っていませんでしたが、私にとっては安心できる場所になっていたのだなと実感できました。

キャンプ後は他の大学の留学生とも会うことができ、いよいよ留学生活が本格化するのだなという気持ちになりました。

#### 9月：授業開始！クラブ活動やイベント盛りだくさん

月初めは、8月の末から開始した履修登録で、ESLの授業以外を何にするか期間いっぱいまで真剣に考えました。4ヶ月という短い期間で、なるべく日本では経験できないようなことをたくさんしたいと思っていました。しかし、留学生がとれる授業数は思ったよりも少なく、秋学期はESLの他には1つしかとることができませんでした。後日1年間留学している学生に聞くと、春学期はESLクラスがなく、全ての履修を自分独自で組めたそうです。理由は他にもありますが、私がこれから留学を考えている学生に1年間の留学を勧めたいと思えた理由の一つが、この授業形態についてでした。

悩みに悩んで、私はESLクラス4つとレギュラークラス1つをとることにしました。私が留学した時期は、北海道教育大学の学生が多かったため、教育系のことを学びたいという人が多かったです。私もそれに便乗して、日本語クラスのサポートができる授業をとりました。私の曜日ごとの予定は下記のとおりです。

曜日	クラス名	種類
月曜日	・ Listening&speaking	ESL
火曜日	・ Writing ・ Reading ・ Grammar	ESL
水曜日	・ Listening&speaking ・ ティーチングアシスタント	ESL * 授業の一環
木曜日	・ Writing ・ Reading ・ Grammar	ESL
金曜日	・ Foreign language teaching practicum(*) ・ サポート係	Regular * 授業の一環

授業と並行して始まったのが、JAC (Japan Alaska Club)というクラブ活動でした。このクラブは、日本に興味のある現地の学生と留学生が交流できる場で、日本伝統の行事を行う回や、ゲームをして遊びながら過ごす回などがありました。日本に関心を持ってきている学生がこんなにもいるのか！と感心したのを覚えています。自国に興味を持ってくれるのは嬉

しいことであると感じることができました。毎週金曜日の夕方に活動していたので、週末ということもあり、皆が楽しく過ごすことのできるクラブでした。

#### 10月：課題が多い週末に限って予定が入りがちな月

授業にも慣れてきて、少しずつ楽しみが増えていったのが10月でした。現地学生はもちろん、同時期に留学していた日本人学生とも仲良くなれ、毎日が充実！という言葉がぴったりの生活でした。しかし、充実していたのは人間関係だけではなく、課題という **Homework** でした。週に2回ある授業は、前半の曜日で課題が出され、週の後半で提出することが多かったです。日本の大学のように、「週末にまとめてやればいい」では済まされないアメリカの厳しさを痛感しました。毎日夕食後に何らかの課題を消化する日々で、私は要領が悪かったので、長いときは夜中までかかって終わらせていました。しかし、週末はいろいろな人が遊びに誘ってくれたため、気合で乗り切っていました。日本ではなかなか体験することのできない本物の銃でのシューティングや、海外の温泉、アイスホッケーなどのスポーツ観戦など、遊びもたくさん楽しめました。

#### 11月：雪と発表と感謝祭

いよいよアラスカの本当の厳しさが現れてくる時期という感じでした。雪は少しずつ降りてはいましたが、本格的に積もりだし、夜中に除雪機が稼働するくらいにまで積もっていました。しかし今年はいよいよ温暖で、現地の学生も雪が積もらなすぎて驚いていました。寒いのが苦手な私にとっては、すごくありがたいと思ってしまいましたが…。それでも橇で遊べるくらいには積もり、人生初海外で人生初の橇滑りを体験しました。楽しいことは寒さをも吹き飛ばしてくれる魔法を持っている気がしました。

また、UAFで毎年行われている「**Flag Dedication**」というイベントにも参加できました。これは、UAFが受け入れている外国人留学生の出身国を紹介してもらおう、というイベントで、毎年3、4か国ほどがランダムで選ばれるものです。今年は運よく日本がその一つに選ばれ、大勢の人の前で「日本」という国を紹介することができました。これほど大勢の人の前で、英語を使ってスピーチをすることはとても緊張しましたが、それよりも自分の国を紹介する責任の重さを感じました。仲間で協力する大切さをアラスカでも感じることもできました。

さらに、11月はアメリカ最大のイベントである感謝祭 (**Thanksgiving**) がありました。私はフェアバンクスの隣町、アンカレッジにある友人の家に招かれ、楽しい時間を過ごすことができました。写真やドラマで見たことのあるような豪華な料理、夜更かしをして友達とゲームをするなど、日本でいうお正月のような時間の過ごし方でした。ショッピングモールで大規模なセールを行っていたのも似ている点です。とても貴重な経験ができました。

#### 12月：1日1日が短く感じ、アラスカに住みたいと思えた

アラスカは北半球のかなり上の方に位置しているため、冬は日照時間がかなり短くなります。10月の半ばから徐々に短くなっていき、12月に入ったころは1日に11時から15時の間の4時間程度しか日照時間がありませんでした。太陽光の力はとても偉大で、私たちが生きていくうえで必要不可欠なものであることを実感しました。ある程度太陽光を浴びないと、うつ病になったり、暴飲暴食によるカロリーの過剰摂取を行ってしまったりするそうです。現地の人もビタミン剤などを摂って対策をしていたので、住み慣れた人でも注意が必要な時期であったといえます。私は、ここでしかできない経験であったのと、毎日とにかく楽しんでいたので、特にこれといった症状は現れなかったです。授業も学期末の試験が中心となり、プレゼンテーションや作文などを多く行いました。

12月に入るとだんだんお別れのことを意識し始めるのと同時に、悲しくなっているかもしれないと自分に言い聞かせ、とにかくアラスカでしかできない体験をしようと心がけていました。沢山の観光名所にも連れて行ってもらえ、アメリカならではの文化や行事を体験し、またアラスカだからこそその経験も数多くあったと思います。

日本を出発する前までは、おそらく人生で一番長くて苦勞する4ヶ月を過ごすことになるのだろうと思っていましたが、この交換留学は私の人生で一番短く、楽しい4ヶ月でした。4ヶ月しか一緒に生活していなかった友人は、もう10年以上の付き合いがあるように感じられるくらい親睦を深めることができました。現地の学生は、少しの空き時間でも遊びに誘ってくれ、毎日ご飯を一緒に食べてくれました。人生で最も雪を見て、遊び、滑りました。一日の日照時間を計算するなんて、日本で生活し続けていれば、経験することはなかったでしょう。誰もが憧れるオーロラを見飽きて、代わりにスポーツ観戦へ行ったことはもはや自慢になることだと思います。人に恵まれ、環境に恵まれた留学でした。アラスカは、ただ寒くてオーロラが見えて、サーモンが有名な州ではありません。そこへ訪れて、生活することによって、魅力が存分に感じられるとても素晴らしい場所なのです。



